

最優秀作 文部科学大臣賞

おともだちとつながった

神奈川県 横浜雙葉小学校 1年
なか山 ちかほ

わたしは、ようちえんのときになかのよかったおともだちとは、べつの小学校にかよっています。いまっている小学校に、ようちえんのおともだちは、あまりいません。いまでは、小学校にもたくさんのおともだちができました。でも、四がつのころは、なかのよいおともだちが大ぜいいるようちえんに、もどりたいなとおもいました。

小学校には行って、すこしたった五がつに、きんじょのこうえんで、ようちえんのおともだちのみゆちゃんにあいました。わたしはうれしくなって、ニコニコすると、みゆちゃんがわたしに、

「いっしょに、ブランコであそぼう。」

とこえをかけてくれました。二りでわらいながら、ブランコをこぐと、みゆちゃんは、とつぜん、

『あさ、なかがわりえこ
いい こと たくさん
いちにちが
はじまる』

とだったので、わたしはびっくりしました。なぜなら、わたしがもっているきょうかしよにのっているしだったからです。わたしは、(わたしもしってる！わたしもうたおう！)とおもって、

『ぼくも
わたしも
せんせいも』

と、大きいこえでいいました。みゆちゃんは、

「え！いっしょなんだね。」

と行って、めが大きくなりました。わたしが

「うん。」

というと、二りで

『つながる
つながる
まるく なる』

と、いっしょになってさげびました。ブランコもたのしそうに、いっしょにキーキーいきました。

『みんな なかよし
いちねんせい』

と、二りでいったとき、ブランコは一ばんたかくまで上がって、いきおいよく空にとんでいきそうでした。

こうえんからのかえりみち、おかあさんがわたしに、

「おなじしを、いっしょにいて二りは、なかがわりえこさんのしみみたいに、つながっていたね。」

といいました。わたしもおかあさんもわらいました。